

関西医療大学 教養教育科目の編成方針

本学では、大学全体として定めた卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）（末尾参照）に掲げた能力の修得を目指し、4年間の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を定めている。各学部・学科はそれぞれの専門性の異なる医療資格に関する教育を行っているため、学科ごとにカリキュラム・ポリシーを定めているが、医療人に求められる人間性の涵養と医療資格取得に必要な専門知識・技術の基盤となるものの見方や考え方、倫理観は共通しているため、本学の教養教育は〔総合教育科目〕において、下記の方針に沿って編成している。

教養教育科目の編成は、「広く一般教養を高めるとともに、高い倫理観を養成（学則第1条）」するため、自然科学系の科目を＜科学的思考の基盤＞分野、人文科学系及び社会科学系科目を＜人間と生活＞＜言語とコミュニケーション＞分野として配置し、全学共通の教養教育を展開していく。

また、高校から大学への学修の質的転換を効果的に行うために、「東洋医療の基礎・導入教育」を総合教育科目の枠内に位置づけ、初年次教育を実施する。当科目では、本学の歴史や建学の精神及び教育理念の底流をなす東洋医療思想に対する基礎的理解を深めるとともに、本学学生に求められる自発的な学修姿勢や基本的学修スキルについて、高大接続教育の視点を交えて教授する。

一方、各学科はそれぞれ専門性の異なる医療資格に関する教育を行っている。したがって、学科が求める教育内容の必要性に応じて「より深い専門知識と技術（学則第1条）」へと発展できるように学科の専門性に対応した科目を配置し、専門教育の基盤となる思考力を身につけた人材を養成する。

＜科学的思考の基盤＞

当分野には、人体の構造と機能を学ぶ上で必要となる自然科学の基礎的知識の修得と、これからの医療現場で必須となる情報処理、統計処理能力の修得を目指す科目を配置して、論理的かつ科学的な思考で問題を発見し、解決できる能力を養う。

＜人間と生活＞

当分野には、現代社会において心身共に健康に生活していく上で必要となる知見の修得を目指す科目を配置して、医療人に求められる倫理観の涵養ならびに多様性を尊重することができる人間性の発展を促す。

＜言語とコミュニケーション＞

当分野には、現代人として備えておくべき国際性の修得に力点を置いた科目、また、他者とのコミュニケーションを円滑に図る能力を修得するための科目を配置し、多文化に対する理解並びに医療人として患者の症状を的確に把握し治療効率を高めるほか同僚や他の医療スタッフとも良好な関係を築くことができる能力の修得を目指す。

(教養教育の科目及び教育上の工夫)

- ・「東洋医療の基礎・導入教育」では、大学生の学修の基礎となるスキルの修得に係る内容については学科間で共通性をもたせ、グループワークやディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成などの教育手法を導入して実施する。具体的な内容や授業計画については、学科のもつ特性や学生気質を考慮の上、各学科の責任の下で検討する。また、東洋医療の基礎的理解や各学科が目指す資格と東洋医療との関わりについても、各学科の専門教育との関連性の深さに応じて学科ごとに教育内容を検討する。
- ・<科学的思考の基盤>は、選択科目を配置するが、臨床検査学科は学科の特性を鑑み、「生命のしくみ」、「生命の化学」を必修とする。
- ・<人間と生活>は、幅広い領域の科目を取り入れることが可能な分野であるが、科目名や開講期間等の設定に際しては、入学前取得単位の認定や他大学との単位互換等を考慮に入れる。
- ・<言語とコミュニケーション>分野で開講されている外国語科目の一部については、学科の枠組みを超えた習熟度別のクラス編成のもとで実施する。
- ・外国語の種類は、はり灸・スポーツトレーナー学科、ヘルスプロモーション整備学科、臨床検査学科は2か国語(英語、中国語)を継続する。特に、はり灸・スポーツトレーナー学科では学科の特性上、中国語を重視する。
- ・理学療法学科、作業療法学科、保健看護学科では、手話を取り入れる。
- ・臨床検査学科の「医学英語」は、学科の特性を鑑み、他学科の「医療英語」に統一することなく現行の科目名を維持する。

※大学 ディプロマ・ポリシー

関西医療大学は、建学の精神「社会に役立つ道に生きぬく奉仕の精神」を具現化するため、卒業認定に必要な所定の単位を修得し、医療人に求められる次の能力を身につけ、地域で医療を必要とする人々への奉仕の精神を持ち続ける学生に対して、学部・学科ごとに、学士の学位を授与します。

- ・ 広い一般教養と、医療人としての高い倫理観に基づく実践力
- ・ 論理的な思考で問題解決できる能力
- ・ 医療人としての責任を自覚し、積極的に行動できる主体性
- ・ チーム医療の担い手として、多様な人々と協調・協働できる能力
- ・ 社会の要望に応えうる医療知識と技術

(令和4年2月24日改定)